

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-216068

(43)Date of publication of application : 10.08.2001

(51)Int.Cl.

G06F 3/00

G06F 12/00

(21)Application number : 2000-024147

(71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD

(22)Date of filing : 01.02.2000

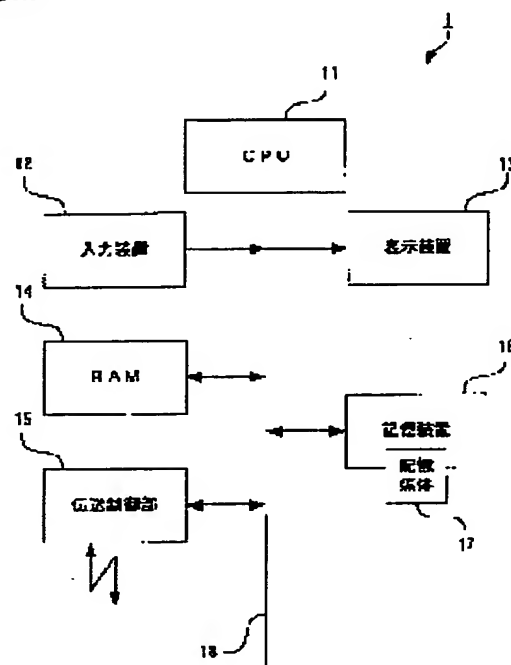
(72)Inventor : MIYAHARA KOJI

(54) FILE ICON DISPLAY DEVICE AND STORAGE MEDIUM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a file icon display device for confirming the number of passing dates since an updated date or a final access date only by viewing an icon.

SOLUTION: A CPU 11 registers or sets a file name for converting the display of an icon to be displayed on the display screen of a display device 13 and the change mode of the icon display in an icon conversion table in a storage device 16, and starts a file list application, and judges whether or not the file of an icon to be displayed on the display screen of the display device 13 is present, and when the pertinent file is present, the CPU obtains the extender of the file, and judges whether or not the icon for changing the display configuration is present, and when the pertinent icon is present, the CPU allows the display device 13 to display an icon corresponding to the number of passing dates since the present date on the display screen based on display change corresponding to the date mode.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-216068
(P2001-216068A)

(43)公開日 平成13年8月10日(2001.8.10)

(51)IntCl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-ト*(参考)
G 0 6 F 3/00	6 5 7	G 0 6 F 3/00	6 5 7 A 5 B 0 8 2
12/00	5 1 5	12/00	5 1 5 B 5 E 5 0 1

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願2000-24147(P2000-24147)

(22)出願日 平成12年2月1日(2000.2.1)

(71)出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(72)発明者 宮原 浩治

東京都東大和市桜ヶ丘2丁目229番地 カ

シオ計算機株式会社東京事業所内

(74)代理人 100090033

弁理士 荒船 博司 (外1名)

Fターム(参考) 5B082 EA10 FA11 GA14 GC01 GC03

5E501 AA02 BA03 BA05 BA17 CA03

CB02 CB09 DA11 DA17 FA04

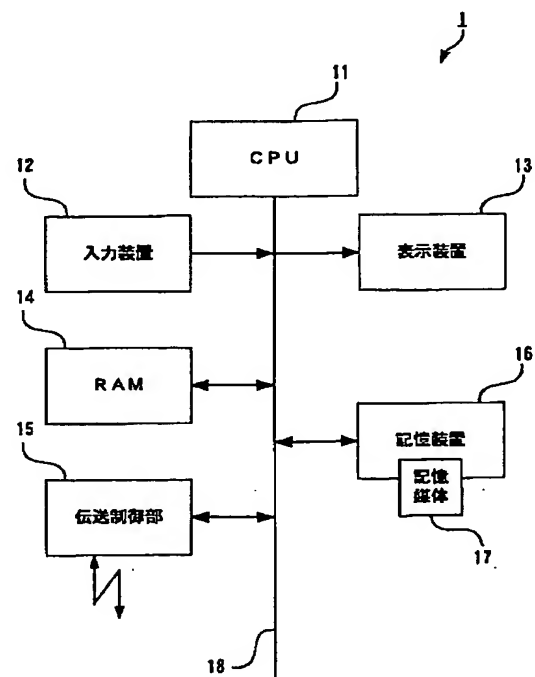
FB04 FB24 FB25 FB28

(54)【発明の名称】 ファイルアイコン表示装置及びその記憶媒体

(57)【要約】

【課題】 本発明の課題は、アイコンを見るだけで更新日時、あるいは最終アクセス日時からの経過日数を確認することができるファイルアイコン表示装置を提供することである。

【解決手段】 CPU 11は、表示装置13の表示画面上に表示されるアイコンの表示を変換するファイル名等、及びアイコン表示の変化モード等を記憶装置16内のアイコン変換テーブル等に登録または設定した後、ファイル一覧アプリケーションを起動して、表示装置13の表示画面上に表示するアイコンのファイルがあるか否かを判断し、該当するファイルがある場合には、当該ファイルの拡張子を取得し、その表示形態を変化させるアイコンがあるか否かを判断し、該当するアイコンがある場合には、前記日付モードに応じた表示変化に基づいて、現在日時からの経過日数に対応するアイコンを表示装置13の表示画面上に表示させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】各ファイル毎にその更新日時、あるいはアクセス日時を記憶する記憶手段と、

表示対象ファイル毎に更新後、あるいはアクセス後の経過日数を算出する経過日数算出手段と、

前記各表示対象ファイルに対応するアイコンを表示するときは、前記経過日数算出手段により算出された各表示対象ファイルの経過日数に基づいて、その各アイコンの表示形態を変更するアイコン表示変更手段と、

を備えることを特徴とするファイルアイコン表示装置。

【請求項2】前記経過日数に対応した複数の色彩データを表示形態として記憶する表示形態記憶手段を更に備え、

前記アイコン表示変更手段は、前記各表示対象ファイルの経過日数に基づいて、対応する色彩データを前記表示形態記憶手段から読み出し、当該各表示対象ファイルのアイコンの色彩を変更することを特徴とする請求項1記載のファイルアイコン表示装置。

【請求項3】前記経過日数に対応した複数の形状変更データを表示形態として記憶する表示形態記憶手段を更に備え、

前記アイコン表示変更手段は、前記各表示対象ファイルの経過日数に基づいて、対応する形状変更データを前記表示形態記憶手段から読み出し、当該各表示対象ファイルのアイコンの形状を変更表示することを特徴とする請求項1記載のファイルアイコン表示装置。

【請求項4】表示形態を変更するファイル属性を記憶するファイル属性記憶手段を更に備え、

前記アイコン表示変更手段は、前記各表示対象ファイルのアイコンを表示するとき、前記ファイル属性記憶手段に記憶されたファイル属性に対応する表示対象ファイルのアイコンの表示形態を変更することを特徴とする請求項1乃至3記載のファイルアイコン表示装置。

【請求項5】複数のファイルに対応するアイコンを表示するためのコンピュータが実行可能なプログラムを格納した記憶媒体であって、

各ファイル毎にその更新日時、あるいはアクセス日時を管理するためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、

表示するファイルの経過日数を算出するためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、

前記各ファイルに対応するアイコンを表示するときは、前記経過日数に基づいて、その各アイコンの表示形態を変更するためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、

を有するプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ファイルアイコン

表示装置及びその記憶媒体に係り、詳細には、ファイルの更新日時、あるいはアクセス日時からの経過日数によりアイコンの表示形態を変更するファイルアイコン表示装置及びその記憶媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、パーソナルコンピュータ等でファイルの一覧を表示する場合には、ファイル名の拡張子に関連付けされたアイコンを付加して表示している。これにより、ファイルアイコンそのものを見るだけで、拡張子を目で追わなくてもどのようなアプリケーションから実行されるファイルかを簡単に認識することができる。

【0003】また、ファイルの表示方法を変更することにより、従来からファイルの詳細な情報を表示することができ、ファイルサイズやファイルの更新日時等の情報を表示させることもできる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来のパーソナルコンピュータにあっては、ファイルの更新日時を確認する手段が更新日時の文字列を目で確認するしかなかったため、通常は更新日時の新しい順、若しくは古い順にソートして確認するが、確認するファイルが大量にある場合などには、日付のような似通った文字列の確認作業は、人間にとってかなりミスを犯しやすい部分でもあるという問題があった。

【0005】本発明の課題は、アイコンを見るだけで更新日時、あるいは最終アクセス日時からの経過日数を確認することができるファイルアイコン表示装置を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、請求項1記載の発明は、各ファイル毎にその更新日時、あるいはアクセス日時を記憶する記憶手段（例えば、図1の記憶装置16に記憶されているファイル情報）と、表示対象ファイル毎に更新後、あるいはアクセス後の経過日数を算出する経過日数算出手段（例えば、図7のCPU11が実行するアイコン表示処理のステップS14あるいはS15）と、前記各表示対象ファイルに対応するアイコンを表示するときは、前記経過日数算出手段により算出された各表示対象ファイルの経過日数に基づいて、その各アイコンの表示形態を変更するアイコン表示変更手段（例えば、図7のCPU11が実行するアイコン表示処理のステップS18及びS19、図3及び図4の表示例）と、を備えることを特徴としている。

【0007】この請求項1記載の発明によれば、記憶手段は、各ファイル毎にその更新日時、あるいはアクセス日時を記憶し、経過日数算出手段は、表示対象ファイル毎に更新後、あるいはアクセス後の経過日数を算出し、アイコン表示変更手段は、前記各表示対象ファイルに対応するアイコンを表示するときは、前記経過日数算出手

段により算出された各表示対象ファイルの経過日数に基づいて、その各アイコンの表示形態を変更する。

【0008】したがって、この請求項1記載の発明によって、各ファイルのプロパティ等を参照することなく、ファイルの更新日時あるいはアクセス日時が古いことを視覚的に認識することができ、それらのファイルを整理するときの利便性を向上することができる。そして、不要なファイルを整理することにより、該装置のメモリを有効に利用することができる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、図1～図7を参照して本発明に係る情報処理装置の一実施の形態を詳細に説明する。まず、構成を説明する。

【0010】図1は、本発明を適用した一実施の形態における情報処理装置1の要部構成を示すブロック図である。この図1において、情報処理装置1は、CPU11、入力装置12、表示装置13、RAM14、伝送制御部15、記憶装置16、及び記憶媒体17により構成されており、記憶媒体17を除く各部はバス18に接続されている。

【0011】CPU (Central Processing Unit) 11は、記憶装置16に記憶されている情報処理装置1が実行する各種処理プログラム（オペレーティングシステムも含む）、入力装置12から入力される各種指示、あるいは各種指示に応じて処理された各種データをRAM14内に格納し、この入力指示及び入力データ等に応じてRAM14内に格納したアプリケーションプログラムに従って各種処理を実行して、その処理結果をRAM14内に格納するとともに、表示装置13に表示する。そして、CPU11は、RAM14内に格納した処理結果を入力装置12から入力指示される記憶装置16内の保存先に保存する。

【0012】また、CPU11は、初期設定処理（図6参照）を実行し、表示装置13の表示画面上に表示されるアイコンの表示を変換するファイル名、及びアイコン表示の変換を除外する拡張子を記憶装置16内のアイコン変換テーブル等に登録し、アイコン表示の変化モード及び日付モードを記憶装置16内の日付モードテーブル等に設定し、記憶装置16に記憶されているファイル一覧アプリケーションを起動する。

【0013】更に、CPU11は、アイコン表示処理（図7参照）を実行し、表示装置13の表示画面上に表示するアイコンのファイルがあるか否かを判断し、該当するファイルがある場合には、そのファイル情報よりファイルの拡張子を取得し、その表示形態を変化させるアイコンがあるか否か、表示の変更を除外するアイコンがあるか否かを判断する。そして、該当するアイコンがある場合には、CPU11は、アイコンを表示するための日付モードを判別し、その日付モードに応じた表示変化に基づいて、現在日時からの経過日数に対応するアイコン

を表示装置13の表示画面上に表示させる。

【0014】入力装置12は、カーソルキーや数字入力キー等を備えたキーボード及びマウス等のポインティングデバイスを含み、キーボードにおいて押下されたキーの押下信号やマウスの位置信号をCPU11に出力する。

【0015】表示装置13は、CRT (Cathode Ray Tube) 等により構成され、CPU11から入力される表示データを表示する。

【0016】RAM (Random Access Memory) 14は、CPU11が上記各種処理プログラムを実行する際に各種プログラム及び各種データを展開するプログラム格納領域を形成するとともに、CPU11がアイコン表示処理を実行する際に、記憶装置16に記憶されているアイコン変換テーブル内の拡張子及びアイコンファイル名データ、変換除外拡張テーブル内の拡張子データ、日付モードテーブル内の日付モードデータ、色彩の変化度合いテーブル内の色彩変化度合いデータ、及び各ファイルアイコンのファイル情報データ等を一時的に格納するためのメモリ領域を形成する。

【0017】伝送制御部15は、モデム (MODEM : Modulator/DEModulator) またはターミナルアダプタ

(TA : Terminal Adapter) 等によって構成され、電話回線、ISDN回線等の通信回線を介して情報処理装置1と外部機器との通信を行うための制御を行う。モデムは、電話回線を介してパーソナルコンピュータ等の外部機器との通信を行うために、CPU11によって処理されたデジタルデータを電話回線の周波数帯域にあったアナログ信号に変調し、また、電話回線を介して入力されたアナログ信号をデジタル信号に復調する装置であり、ターミナルアダプタは、ISDN回線を介してパーソナルコンピュータ等の外部機器との通信を行うために、既存のインタフェースをISDNに対応するインタフェースに変換する装置である。

【0018】記憶装置16は、プログラムやデータ等が予め記憶されており、この記憶装置16は、磁氣的、光学的、若しくは半導体メモリなどCPU11で読取可能な記憶媒体17を含んだ構成である。この記憶媒体17はCD-ROM等の可搬型の媒体やハードディスク等の固定的な媒体を含む。また、この記憶媒体17には当該システムに対応する各種アプリケーションプログラム、制御プログラム、初期設定処理プログラム、アイコン表示処理プログラム、及び各処理プログラムで処理されたデータ等を記憶され、前記憶媒体17に格納するプログラム、データ等は、その一部若しくは全部をサーバやクライアントからネットワーク回線などの伝送媒体を介して伝送制御部15から受信する構成にしてもよく、更に、前記憶媒体17はネットワーク上に構築されたサーバの記憶媒体であってもよい。更に、前記プログラムをネットワーク回線などの伝送媒体を介してサーバやク

ライアントへ伝送して、これらの機器にインストールするように構成してもよい。

【0019】また、この記憶媒体17に記憶するプログラム、データ等は、通信回線等を介して接続された他の機器から受信して記憶する構成にしてもよく、さらに、通信回線等を介して接続された他の機器側に上記記憶媒体を備えた記憶装置を設け、この記憶媒体17に記憶されているプログラム、データを通信回線を介して使用する構成にしてもよい。

【0020】図2～図5は、情報処理装置1の記憶装置16に記憶されている各種テーブルを示す図である。各テーブルは、ユーザにより後述する初期設定処理において設定されるか、あるいは、予めユーザ等により設定されている。

【0021】図2(a)は、記憶装置16に記憶されているアイコン変換テーブルの登録例であり、ここでは、設定された拡張子とそのアイコンファイル名が記憶され、図2(b)は、記憶装置16に記憶されている変換除外拡張子テーブルの登録例であり、例えば、この図では拡張子「exe」が記憶されている。

【0022】図3及び図4は、記憶装置16に記憶されている5種類のアイコン表示の変化モードの変化の度合いを示す図である。CPU11が実行する初期設定処理のステップS3において、ユーザはいずれかのアイコン表示の変化モードを設定する。図3(a)～(c)、図4(d)～(e)は、色彩の変化度合いテーブル、色の変化度合いテーブル、サイズ変化度合いテーブル、形状の変化度合いテーブル、及び傾きの変化度合いテーブルの具体例であり、設定された経過日数に応じて、各変化度合いが決定される。また、各テーブルにおける経過日数及びそれに対応する各変化度合いは、記憶装置16に予め記憶されている構成としてもよく、あるいはユーザが初期設定処理のステップS3において任意に設定することができる構成としてもよい。

【0023】図5(a)は、記憶装置16に記憶されているファイル情報の具体例であり、そのファイル情報には、少なくとも、ファイル名、更新日時、最終アクセス日時等が含まれる。図5(b)は、記憶装置16に記憶されている日付モードテーブルの登録例であり、本実施の形態においては、更新日付モード(1)と最終アクセス日付モード(2)の2種類のモード設定が選択可能である。この日付モードの設定は、情報処理装置1の現在日時までの経過日数の起算日時を決定するものである。また、図5(c)は、記憶装置16に記憶されている表示用アイコンファイル情報の具体例であり、本実施の形態においては、この表示用アイコンファイル情報に登録されているファイル(この図では、「test.xls」)のアイコン表示形態が変化することとなる。

【0024】次に、本実施の形態の動作を説明する。図6及び図7のフローチャートを参照して、情報処理装置

1のCPU11が実行する初期設定処理及びアイコン表示処理の動作を説明する。なお、以下に説明する各フローチャートについて補足すれば、その、フローチャートで示す各機能を実現するプログラムは、CPU11が読み取り可能なプログラムコードの形態で前記記録媒体17に格納されている。また、このプログラムはプログラムコードの形態でネットワーク回線などの伝送媒体を介して伝送することもできる。

【0025】まず、情報処理装置1のCPU11により実行される初期設定処理の動作を説明する。図6は、本実施の形態における情報処理装置1のCPU11が実行する初期設定処理を示すフローチャートである。この初期設定処理は、ユーザが情報処理装置1の表示装置13の表示画面上に表示されるアイコンに対して後述するアイコン表示処理を行うとき、その前に実行されるものである。

【0026】情報処理装置1が初期設定処理を開始すると、CPU11は、ユーザにアイコン変換テーブルの登録をさせる(ステップS1)。本実施の形態では、図2(a)に示すように、アイコンファイル名と拡張子の設定をさせる。

【0027】ユーザがアイコン表示の変換を望まない場合には、CPU11は、ユーザに変換除外拡張子テーブルの登録をさせる(ステップS2)。本実施の形態では、図2(b)に示すように、拡張子が「exe」のファイルが設定されている。

【0028】そして、CPU11は、ユーザに5種類のアイコン表示の変化モード(図3及び図4参照)から所望するモードを設定させ(ステップS3)、日付モードテーブル(図5(b)参照)の設定をさせ(ステップS4)、この初期設定処理を終了する。

【0029】次いで、情報処理装置1のCPU11により実行されるアイコン表示処理の動作を説明する。図7は、本実施の形態における情報処理装置1のCPU11が実行するアイコン表示処理を示すフローチャートである。情報処理装置1の電源がONされて、情報処理装置1の初期設定処理が終了すると、CPU11は、このアイコン表示処理を開始する。

【0030】ステップS6において、CPU11は、表示用アイコンファイル(図5(c)参照)からアイコンの表示をするファイルがあるか否かを判断する。そして、そのようなファイルがない場合には、そのままこのアイコン表示処理を終了し、アイコン表示するファイルがある場合には、CPU11は、記憶装置16に記憶されている当該ファイルのファイル情報(図5(a)参照)を取得して、RAM14に展開し(ステップS7)、そのファイル情報から拡張子を取得する(ステップS8)。

【0031】ステップS9において、CPU11は、ステップS8で取得したファイル情報の拡張子をアイコン

変換テーブル（図2（a）参照）の拡張子と比較し、アイコンの表示を変化させるファイルであるか否かを判断する。そして、アイコン表示を変化させないファイルである場合には、そのままこのアイコン表示処理を終了し、アイコン表示を変化させるファイルである場合には、ステップS10に移行する。

【0032】ステップS10において、CPU11は、取得した拡張子が変換除外拡張子テーブル（図2（b）参照）に登録されているアイコン表示の変化をしない拡張子であるか否かを判断する。そして、変換除外拡張子である場合には、ステップS6に移行し、CPU11は、表示用アイコンファイル（図5（c）参照）から、次のアイコンの表示をするファイルについて同様の処理を繰り返す。また、変換除外拡張子でない場合には、CPU11は、オペレーティングシステムから現在の日時を取得し（ステップS11）、日付モードテーブルに登録されている現在の日付モードを取得して、RAM14に格納する（ステップS12）。

【0033】ステップS13において、CPU11は、RAM14に格納した日付モードが更新日付モードか最終アクセス日付モードかを判別する。そして、更新日付モードである場合には、ステップS14に移行して、CPU11は、オペレーションシステムから取得した現在日時から、RAM14に展開されているファイル情報から取得した更新日時を減算し、経過日数を算出する。

【0034】また、最終アクセス日付モードである場合には、ステップS15に移行して、CPU11は、前記現在日時から、RAM14に展開されているファイル情報から取得した最終アクセス日時を減算し、経過日数を算出する。

【0035】そして、CPU11は、記憶装置16に記憶されている各変化度合いテーブルより、算出した経過日数に対応するアイコン表示の変化状態を検索する（ステップS16）。

【0036】ステップS17において、CPU11は、前記検索により、アイコン表示の変化状態があるか否かを判断する。そして、アイコン表示の変化状態がない場合には、ステップS6に戻り、CPU11は、表示用アイコンファイル（図5（c）参照）から、次のアイコンの表示をするファイルについて同様の処理を繰り返す。また、アイコン表示の変化状態がある場合には、CPU11は、その表示状態を変化させたアイコンを設定し（ステップS18）、表示装置13の表示画面上に該当するアイコンを表示してから（ステップS19）、ステップS6に移行して、表示用アイコンファイル（図5（c）参照）から、次のアイコンの表示をするファイルについて同様の処理を繰り返す。

【0037】このように、CPU11は、表示用アイコンファイル（図5（c）参照）から、アイコンの表示をするファイルについて全て上記処理をした後、このアイ

コン表示処理を終了する。

【0038】ここで、図3及び図4を参照して、表示装置13の表示画面上に表示されているファイルアイコンの変化状態を具体的に説明する。上述した情報処理装置1のCPU11が実行するアイコン表示処理のステップS11～S15において、例えば、CPU11により経過日数が5日と計算されたとすると、ステップS3において、ファイルアイコンの変化モードがいずれの場合であってもアイコンの表示形態は変化しない（ステップS16～S17）。

【0039】同様の処理により、例えば、経過日数が20日と計算されたとき、ステップS3において、ファイルアイコンの変化モードが色彩の変化である場合には、色彩変化度合い“20”のトーンでこのアイコンは、表示装置13の表示画面上に表示される（ステップS16～S19、図3（a）参照）。また、変化モードが色の变化である場合には、このアイコンはライム色に着色して表示され（図3（b）参照）、サイズの変化である場合には、このアイコンのサイズは元のサイズの0.8倍で表示され（図3（c）参照）、形状の変化である場合には、このアイコンの形状は変形1のように一の角が削られて表示され（図4（d）参照）、傾きの变化である場合には、このアイコンは30°傾けられて表示される（図4（e）参照）。

【0040】以上のように、本実施の形態における情報処理装置1は、記憶装置16に記憶されている各ファイルのファイル情報より、それぞれの更新日時あるいは最終アクセス日時を取得して、現在日時と比較して経過日数を算出し、この算出された経過日数に応じて、ファイルアイコンの表示形態を変更することとした。

【0041】したがって、本実施の形態における情報処理装置1によって、ユーザはいちいち表示装置13の表示画面上にファイルの詳細なプロパティを表示しなくても、アイコンの表示状態によりそのファイルの更新日時あるいは最終アクセス日時が古いことを視覚的に認識することができる。そのため、ユーザは、ほとんどアクセスされていないファイル、あるいは、ほとんど使用していないファイルを判断でき、それらのファイルを整理するときの利便性を向上することができる。そして、そのように不要なファイルを整理することにより、情報処理装置1のメモリ14あるいは記憶媒体17を有効に利用することができる。

【0042】また、本実施の形態の情報処理装置1は、ファイルアイコンの表示形態の変更モードとして、5種類のモードを選択することができ、ファイルアイコンの表示形態を変更したくない場合には、ユーザがそれを登録することにより、ファイルアイコンをそのままの表示とすることを可能とした。

【0043】したがって、本実施の形態の情報処理装置1によって、ユーザの趣味嗜好に応じて、各ファイルの

ファイルアイコンを所望する表示形態で変更することができる。

【0044】なお、本実施例においては、情報処理装置 1 の電源が ON されて、情報処理装置 1 の初期設定処理が終了してからアイコン表示処理を開始する場合について説明したが、初期設定処理については、情報処理装置 1 で作業を行っている途中で行わせることも可能とし、アイコン表示処理については、情報処理装置 1 で作業を行っている場合に、必要に応じて動作させることができるものとする。

【0045】

【発明の効果】請求項 1 及び 5 記載の発明によれば、各ファイルのプロパティ等を参照することなく、ファイルの更新日時あるいはアクセス日時が古いことを視覚的に認識することができ、それらのファイルを整理するときの利便性を向上することができる。そして、不要なファイルを整理することにより、該装置のメモリを有効に利用することができる。

【0046】請求項 2 及び 3 記載の発明によれば、ユーザの趣味嗜好に応じて、各ファイルのファイルアイコンを所望する表示形態で変更することができる。

【0047】請求項 4 記載の発明によれば、各ファイルの属性に応じてファイルアイコンの表示形態を変更することができ、ユーザが所望するファイルのアイコンのみを表示変更することができる。そのため、操作上のユーザの利便性を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明を適用した一実施の形態における情報処理装置 1 の要部構成を示すブロック図である。

【図 2】図 2 (a) は、記憶装置 16 に記憶されているアイコン変換テーブルの登録例であり、図 2 (b) は、

記憶装置 16 に記憶されている変換除外拡張子テーブルの登録例である。

【図 3】図 3 (a) は色彩の変化度合いテーブルの、図 3 (b) は色の変化度合いテーブルの、図 3 (c) はサイズ変化度合いテーブルの具体例とアイコン表示の変形例である。

【図 4】図 4 (d) は形状の変化度合いテーブルの、図 4 (e) は傾きの変化度合いテーブルの具体例とアイコン表示の変形例である。

【図 5】図 5 (a) は、記憶装置 16 に記憶されているファイル情報の具体例であり、図 5 (b) は、記憶装置 16 に記憶されている日付モードテーブルの登録例であり、図 5 (c) は、記憶装置 16 に記憶されている表示用アイコンファイル情報である。

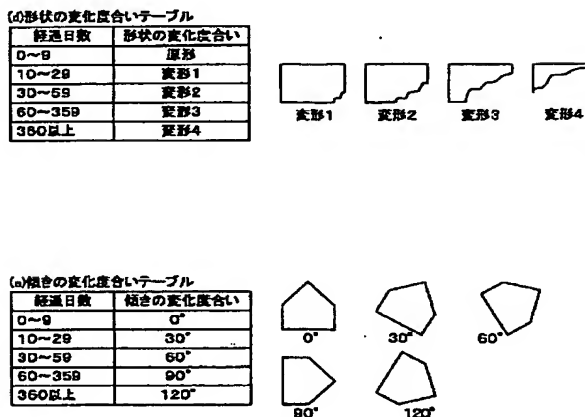
【図 6】本発明を適用した一実施の形態における情報処理装置 1 の CPU 11 が実行する初期設定処理を示すフローチャートである。

【図 7】本発明を適用した一実施の形態における情報処理装置 1 の CPU 11 が実行するアイコン表示処理を示すフローチャートである。

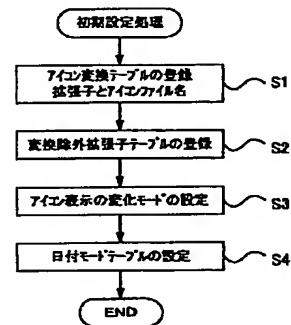
【符号の説明】

- 1 情報処理装置
- 11 CPU
- 12 入力装置
- 13 表示装置
- 14 RAM
- 15 通信制御部
- 16 記憶装置
- 17 記憶媒体
- 18 バス

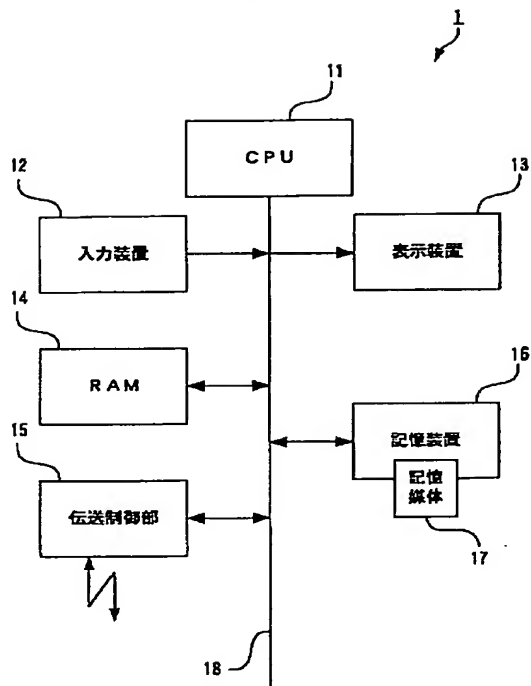
【図 4】



【図 6】



【図1】



【図2】

a) アイコン変換テーブルの登録例

拡張子	アイコンファイル名
xls	xls.ico
doc	doc.ico
txt	txt.ico
⋮	⋮

b) 変換除外拡張子テーブルの登録例

拡張子
exe
⋮

【図5】

a) ファイル情報の例

作成日時	1999/04/08 10:56:42.000
更新日時	1999/08/03 12:34:56.000
最終アクセス日時	1999/09/23 05:14:23.000
ファイルサイズ	2563
ファイル名	test.xls
⋮	⋮

b) 日付モードテーブルの登録例

日付モード
1

1:更新日付モード

2:最終アクセス日付モード

c) 表示用アイコンファイル

test.xls
⋮

【図3】

a) 色の変化度合いテーブル

経過日数	色相変化度合い
0~9	0
10~29	20
30~59	50
60~359	60
360以上	80



b) 色の変化度合いテーブル

経過日数	色変化度合い
0~9	デフォルト
10~29	ライム
30~59	シーダー
60~359	緑
360以上	濃い緑

c) サイズ変化度合いテーブル

経過日数	サイズ変化度合い
0~9	1倍
10~29	0.8倍
30~59	0.7倍
60~359	0.6倍
360以上	0.4倍



【図7】

